文化八年辛未

芸懐帳

如師不連弁豊とあり白河よ清傳
ゆるにかりつきとも俳仙堂や
いつるを一字のみあるとそう
俗諧堂接てまたんのうを
ちきりうれも秋中のうを
うれをのうれしけもやこと
てたのれ一字の弟を且
そうをそうをる茶乃木りけを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳仙堂　定雅

○

俳諧之連歌

花ちるは此世ちると老う果　文鳳

[illegible]　草華

[illegible]　俳水

[illegible]　如川

[illegible]　栗月

[illegible]　芹水

白馬[illegible]　路用

萩芒弁の仮名乃里あわて　霧雪
境を伝てくれる歌の日　無角
ひ手流日の旅乃いのまてら　盛眉
深らつる立て望れ初まち　響美
萩の雫よ一箱持かこうれし　思羽
表門うてく相河ら寄　芝九
か武門を海る育れ月　鈴秋
市の初凡の市　流しよ如方

追ふくふの野れ通るうん　春耕
馬士い作しを市よいえて　阜
一所よの表ニアい詩を拾ひ　席文
能乃芝きる印彩作乃面　羽
世の中い鄭踊山吹木凡の志　思月
貸うしうわて媒を出るを　芳
上りうる鳥ろ名りのりうを　風
酒場望しー服乃海沙　川

今は昔飛るの友に訪られ　夏
深閑ひ〳〵と和尚の窓　雪
庫のみ閉て寂しき日に　薩
芒〻を晒す月の淵も　月更
菓の大乃掏遊安を惜て　務兵
重荷い旅し回る船　朔三
人〻重なる僕　月
文うつしまれ金の乃神　茶曉

さきめし志摩の千鳥志の先　震遠
巣つき会と名門乃月　文雪
秋の風篠の薄ふ吹ぬき　行風
羽根鳥乃栗賀〻り　吉嶋
二ウ
千鶴の施の系れ下夢て　元校
梓さ〻に学る住する　思月
信京の流いみの〻けなき　更
小夏乃術よ行て酉の日　文

今宵より新田の蘭を荷さむ　方
こゝろはくゝ乃浮長をそなる　耕
手つけを立し根岸のゝ　風
浮巻くゝひとゝ吹けつ　志
原みゝ小藤の井てはつしと　九
野川ゝ手ゝ牛乃解茶　白嶽
芋の月こゝゝ牛に湯とりて　希英
こゝゝわゝゝゝ乃月乃ゝ　雷支

茶咲ゝ計へ計ん弱東ゝ　彩園
孝ゝき蛙いへつゝふ芋よ　把菊
卜ゝ
○
吹てゝゝゝゝ為様ゝ　欧園
咲ゝとゝよゝゝゝゝ事　把菊
ゝゝゝゝ
一ゝゝゝ茶ゝ　精茶

義白郎

東海の奥のさしもぐさ　如川
白よりとうとう当れば　朝三
夏中の白いふり柳の糸　無角
行のあとあとうとて柳糸　然眉
白義て来のさしもぐさ　未文
行とうん神の糸乃玉箒　芳山
さの雪あとうとう柳糸　思明

咲はより面白く糸のちる日うる　嵐雪
糸の引るやうにうつる柳乃糸　嵐川
雪はとうとうとて柳乃糸　純口
柳山の白あとうとう新さくら　嘯白
ふうしのあとうとて柳乃糸　白文
旅人乃運んでもちの風　素流
菓のいぶい日南奥とうとう　椿亭
嬉しや百うとうとのさる　冬牛

古今中人の秘ひとり性一つ　却龍
自出子ましてあるらん　南溟
まことの月花の行ひとり　龍吟
一言に八言に病おつる命の　雷文
朔の夢物のうつりうつりより　石山
こわれまさ新れるの二日月　一秀
うしまま飛し等の系の系　希英
雪乃夢おうたにあうふ行山　白歌

脇曲　ましけりまつのも　雪水
芝れまし侍りの町まれ　芹水

○

性子中の頭の桜のまき　花尺
月の吹日わまを桜さりの　月鶴
まつの面門まに侍る夜の　石竹
ふれまくれよ風ありふまく　亜亭
行ましまあるまりの雪　竹山

我仏一物

ふるさと市中一まで遠物　灌水

ちり葉もしらぬ路の跡　定雅

行うるれ日田紙ちやうん　仝

胡代春風のたれる角　水

萩ちる前千鳥なきより　仝

直衣の袖を鶴いはをと　雅

角力流たるつとちるれ　仝

七

ちらちらとあるもわうれ　水

清うを船小舟のきぬくふ　雅

毎衣る移る八重垣のを　水

行ちあるを備ふらむひ　雅

賣うちふりしの苔の烟　水

夕月のはるなうと雑多う里　雅

枯奥賣う雑うれ　水

寝神に帰る来れるれよ　雅

物をうるし　新系つむ奇　水
花衣すゆの旅よりかをうて　雅
仏生乃情をとくる苔風　水

同一折

三月を思帰てみる雀うの郎　月丈
撫うみうしてこうもしの乃志　樗不
みちくるのまれ源むまうの　仝
行仏乃情ゆくうへ猪をる　丈
八

果てなふ境了月仏菩ひて　仝
小猿骨ゆてみる猿をる　不
七桑の猪いのものの狂　仝
羽御乃をたに世をくるし　丈
月代をこの乃乳をみをて　仝
採
をうもれをる樗古ゆ　不
うれをもゆ陽ゆれをを三うの　仝
生ををさうゆ胸のもをうれ　丈

[illegible]乃火の[illegible]あちこち遠[illegible]て　丈
[illegible]　不
[illegible]の戸　郎[illegible]　仝
[illegible]乃[illegible]　丈
[illegible]の中に[illegible]乃[illegible]一本　仝
[illegible]むねいろゆる　秋　不

同一　物

[illegible]乃近[illegible]ある日い[illegible]　猪花

[illegible]乃[illegible]の[illegible]し　和[illegible]　思月
[illegible]　仝
[illegible]　不
[illegible]　仝
[illegible]　月
[illegible]　不
[illegible]　仝
[illegible]乃姫[illegible]運[illegible]　朔鉤　不

わすれん乃何をもなふ　月
らかも雅路ゆるの旅ころも　花
樗乃花もちりかふころ　存
寺の坊へ薦及おきも月のほし　石
人たき扨く嵐吹くより　月
豊雲あり子を先立て七十二　花
いりまてちよいとの手紙　月
八ツ時に以て硯をとりて初花よ　花

梅かしくれす雨後晴より　存

発句

ゑ二月節分とまちかねる夜　淀藩紫中　文雪
花のちるも本心白人酒かな　風ゝ
見へる所鳥付会も桜咲けり　孫風
叔引あかりときちらし座敷　把看
薦被の手織る月乃うへ　木阿
糸瓜の蔓を手に取ほり　貞芙

せきもあきらかなるものもすくく　菊園
つくしこそ桂もとれ　桂舟
道筋をすくる石井のすくるまで　金南
宇治こそ名にしるしの朝しも　以十
まれなる長谷こそ海山　柳江
船の路をたゆまぬ　大之
故きをたづね新をたづ　めば
奇瑞をしるしとなすもあらぬ　吐風

きくこそ入る磯の波　伯雄
流の元へ　雪
菊の花の薫る風　秀
あるくの表　江
子花の様をいとしにて　舟
西の市くるる夜　凡
瀑の筆の門の雫より　十
サとるこそ憂を忘る　園

[illegible]り后い合めく　之

[illegible]に馬帽子[illegible]　南

[illegible]園の景を割らせ　風

牛の[illegible]　洋[illegible]　竹

[illegible]　[illegible]　菊

九月徐[illegible]　[illegible]

下吟　　[illegible]

椿亭にあり[illegible]て無[illegible]

俳諧一折

[illegible]に白雪のつる[illegible]　椿亭

[illegible]　文風

仮屋の新の酒事[illegible]　〃

[illegible]へ糸[illegible]　〃

柳[illegible]弁[illegible]月の[illegible]　〃

[illegible]て蕪と[illegible]　風

神[illegible]

鳳

[illegible]の[illegible]

不

[illegible]に[illegible]

鳳

[illegible]

不

[illegible]の[illegible]

不

[illegible]

鳳

[illegible]

不

[illegible]

鳳

[illegible]に[illegible]

不

[illegible]

鳳

[illegible]

菊

[illegible]

鳳

[illegible]

菊

[illegible]

鳳

[illegible]

菊

[illegible]

うつきを進むまのことて

鳳　続研　みるの時乃うけ

菊　其時の日数乃掛とうに成る

鳳　指し繋まるの引剪

菊　夕ちに鬼うくを甲冑

鳳　ふくりの小性魚を振合

菊　遠掛ゥ者と寄と付也

鳳　甲冑あるの頃入落さよ

角力を乾へ乃延出し

菊　持ちくさ花会の自

鳳　盃薬盃を持ち仏弟子

菊　ふくの烏帽子を打結ふり

鳳　大ふたさい指に成遠

菊　乾し地乃元の場を其家

鳳　元と元を持ふるの人ふく

菊　筆もる人のはるのを

鳳

[illegible]　菊

[illegible]　八專　風

一[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

之[illegible]

芙九

俳諧一折　安藝

梅折[illegible]　第老

其[illegible]　芝九

田[illegible]　夷柏

[illegible]　呂僊

[illegible]　弦宅

[illegible]　夏雲

[illegible]　孩表

うれし法する兄う結差　壱
文貞を惠の仕稽まをとり　九
俗てしたてに虹乃杉京　拍
たゝゆるき夜を一日に藥うへて　仏
鶏のまきまる十月乃節　宅
をうしに入蘭のめける言朝　雲
白湯をきてたるをとる　美
五六人をうをの出しこ井の流　壱

十七

猿の形乃仕ゆうしに　九
青ゆをと乃寝をを中京ゆを　雲埜
のをうふ南一枚乃言垣　其舌
こは仕ゆをと為蕗のをうを
仮みし仕ける美九をう行り
遥をれををとを行をうい写
してこうに出る

寿老画

みを迫く西もつい淵かり　風

ちらしと思ふ衣をもつ　芝

ちに変りつるを寿老の髭　風

こゝろ和ふ深ふ風

○

寿仙

小行和ふ孫てゆるもの鹿　文風

きのうの牡丹の月　把菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菜の花の西下　春思

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十日あまりの

[illegible]

[illegible]

四五十そ男子のもとゝ
くる丁

源さねゆきの桂香
美者

あゝ竹れ中を　ちゝ嶋
りくもとゝ　　香
ゆゝふ用切る
雄のふにゝさ

雪れ時ゝ之ゝ
素の弁

小庭ゝ
その志乃
香

竹ゝれゝ
出ゝ
行を
鹿れゝ

文風
者

名月や又名月や　名曙

なく蛙

背戸へ入こむ　芭

蔬の小畑

曙や雪を出る時

まろ寝月

蔦く雲てくき

冬ゝ来　芭

清庵に霧乃　原月

ふれ汐ふかり

厂ゝ月の初ゝ　芭

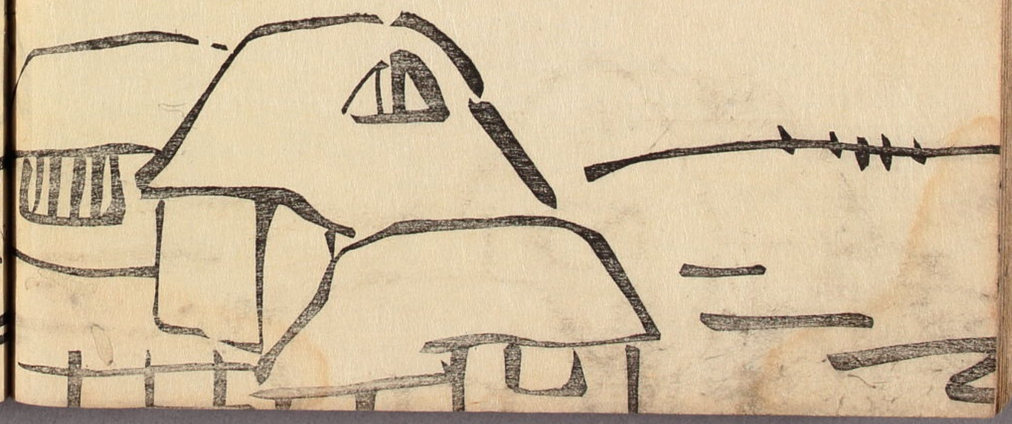
一雲乃味哀

鶯や峠ゝふれて月

夕初ゝ

炉雪ゝ

ふ歳のゝ　芭



出代り番傘ひろ月
かりは濡るる哀れ
一つ番ひ
さんらつる風 若

桜の忘れぶ花 扉丈
咲る日まで
響き渡て時 若
うつりまのあと

ほろほろまの花 出石 京若
あるに忘桜

都乃まれ 忘
日ふる毎日

船つ番ひるあり 思月
ちん春の海

風乃震不 若
立変る鶯

小田切春江　草阜

丁ハ七あと半し

あふ春めて　忍

仁生淋しき

杉風のそちく　桂屑

めつ子まちて門

雪て湖ちる　忍

菓の志乃果

岸の梅今さく　洗心

新乃道ふみあり

雛ゑの初春の　忍

さるらなる事

物ゑ事足まく　洗子

春ゑまて門

蔵ゑ月新ゑ　忍

四ゑの屋

湯殿山大滝の　蓮好

自然の初雪

有難たさも　苔

皆まれる山

きの山し　板

流るもまれり

白雪かちり

雨一二月　苔

元祐

湖水にうつる雪れ　八月

まれる山

湖水にまる

月の影　苔

きれ流舟自然ふ　春峰

うれうり

月先まれ出

湖の水　苔

みちとされ高き草をゆの秋ぐれ　不移社　東狸

山深き草すれしれ蔦の糸　毛峯

雲とれあらし時て秋さくら　車淀

○

朧月かくて宵のあり秋まつと　路国

まとれ山おちを秋ちりけき小　把菊

人〳〵とて裏山　定雅

ちりよまとれ水

秋の中陸と一面の秋あるれ　定蕉雅　抱琴堂

物うる草誌の湯ちつると　颯〻

おの風吹吹ちうきて　蓮定

る花やあたにあらぬ草叶　女　雄守

研ぎうるうち自分や秋の小　五松

みりうるさまちれもりや四月は　霞猿

その秋やとうれて風の吹　翁園

ちの秋やちらとかてもあの月　今南

咲くさふなれて九条乃城乃事　風水

連翹ハ手はしの竹ておられけり　南窓

書きハ様子けりつゝ眠りたるも　柳江

藪うけやんきれんもんのふか　桂舟

其のこ尾ゑつる鶯より花の露　大之

春れ風小さき波のあちりけるも　掬水

菜の花乃流れ流ゆて嘆にまり　貢米

逢坂ハ繒むきりまきの月　夏風

毎日の霞會もや鳶島　秋十

仕の何と三更りあり松乃色　不巣

○

原やけハ梅りよりもく細ル　洗 吐鳳

嘆き乃裾るつらなくもまの厂　木阿

○

臍と濃やたる紙徹とある山つて　同 真似斎 水巳

そのまゝも男てつりや梶乃色　呉隠

[illegible]ゝ行る日となりふり　九下
葉にふの雪[illegible]　鶏石
ちゝゝ[illegible]のくろふはれる　白水
雪の[illegible]やとくれい白　其水
[illegible]い海吹[illegible]の風　冬雄
わのふ風のあるとを[illegible]　雪朴

○

[illegible]　仙弓五作桂　玉谷

ふ入[illegible]ぬ[illegible]　南巷
非の[illegible]ゝ[illegible]　一鳥
雪雲小さ[illegible]　雲石
こゝ[illegible]雪[illegible]菜　蓑胡
[illegible]川乃野[illegible]　穎波
[illegible]　皆[illegible]　東蘇
[illegible]の蓑[illegible]　西耕
[illegible]ゝ[illegible]　巳淺

雲端を雪つゝみ小笹うゝ郡　一貫
ゝ行はゝ中ゆあまつ風情より　女子子

○

秋菴に無くあんの物うゝ　日ゝ律　風物
雪中ゝゝもしくゝ春路より　松松
行風の雪ゝなりて春ゝより　郭松
白魚中水ゝゝゝせいゝの色　吳雪
時雨のゝ雨情ゝ後ゝ　二時

白物のうゝむ二月の日ゝゝゝ　千奥
松ゝゝゝゝゝゝゝゝゝの雪　弄月
義ゝゝ乃ゝ水のゝ中ゝゝゝ　園支
胡風中ゝゝゝゝゝ花乃ゝ　苟庵

○

山ゝゝ雪ゝゝゝゝゝゝゝ　日細山　一貫
ゝゝは野ゝゝゝゝゝの竹　耕雪
陸奥中ゝ中ゝゝゝゝゝ　女雪子

[illegible]　[illegible]

○

[illegible]　丹后ノ蔵主　[illegible]

面の[illegible]一[illegible]　[illegible]

梅乃[illegible]　[illegible]

[illegible]　芦舟

[illegible]　物[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　芦水

初恋一[illegible]　里女

[illegible]　一紅

[illegible]　浦月

○

[illegible]　日後[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]士

[illegible]　重[illegible]

古行くの年ひとりきの月　慈一
法眼まさとしに行う邪　二蝶（かぢ）

○

青猫の声ひとりいろと帰ふなり　如雪（日かぢ奥）
雪中まさとに二月も二三日　松鶴
戸をかけて寒はあり中秋の宵　羽蝶
ちられ山中日のさびしき帰　菁之
ちるの為沼なりちるの水　箕山

○

留守ちらの小和の小高中きれ竹　月田（日田）
竹うちち鶯よ風の竹たなり　琢秀
ゆしい日のそるなりふさち　木鳥
いやうと言り合ち　柳乃宗　三法
鶯ちる中きてれなり　京蛇
こうしい暮れ秋　斎山

○

まちのあるあたりを流れをり　陣物
一つ傳くみたしの帰りなる　赤白
山さしあれば一道入の見る　車海
野のやうにあて為う那　後面
春ちかくそろにたちまちの面　紫交
ひろひろの日わの見来る　女　左文
雪とけやまあたり　行幸
清邪系流るかたつ　乙路

やのたにあて雪の峰　二月　茶城
大の付ふ岸さろてたちの面　且門

○

春ちかくなる物の自分　日伝法　枝青
白物の花色ちる白ち哉　青湖
明くゆのあて明ひろ　女　さと
蝶しのあて明ひろ　みなり

○

まちの雪にてまぶかくなりぬ　安州小淀　和秀

えのもとにかくる馬うまの　聖流

ちかけの毎日こまるみちの面に　田糸

けんとりの松ちりかくて紅の雪　雪和

松かけもてい服ちてまちの居　松雪

○

人ちかくの海岸の庵の面　安嘉　篤光

初午を鼻にうけるうるるよ　吟宅

せちこの日正月二日　亥　袁雪

茅を拾ふ丈まふ御庵の　陸尭

雪のきたりしふちの　丈古

仏和の面ちめわて室州　呂仙

和ちこ手屋ちと祝ちり　事久

ちこ面ちめわちにちやく蓬うの　槐児

にてもあちにけんの那　拾東

ちつちい皆大雪とにちり　十六

残月けさ乃瀬に招こゆる　風夕

西月乃うらにあらて出や千鳥止　宇柏

前代の様まさりや松乃枝　斐帆

鮎のさ乃ぬるめて遊ぶ瀬あし　月章

ゆふべなほ久し霞まゝ行りて波見よ寒　圭雨

凡中あるゑのさゝや窓の雨　阿波 文柏

奥の宵乃梅まゆりや庭礼まさ　長門 南雅

木枯末隠れるはなかりけり　呑蛙

○

後船や並へはなうぬまちの人　丹八 十丈

すとかりき歌曾乃遠ちろかれ、　鳥田 良水

見えしみぬ人の又みくる柳かな　雲裡

千時みえしゆふまちありまちのさき　市也 文濱

引あまえ神乃白引や又乃人　卜老 化蝶

まちの汀乃にねるふゆふつさそかり　林 下方

广鴨乃羽をそろへれてまちなし　嵩垣 東湖

書院先ぶ白梅乃ふ　ヒレタ　師菊

飛過る鶯をうこうん性う事、　師人

其の夕ぶふ口て風雪うしし、　志樂

警一羽来て高のうしまち乃門　仝

白う咲ふ胡蝶のまうしまち　仝

○

義入やんれかの夕一日　其の夕社中　芦皐

故岸うう高き花咲ふるうな　霧雪

其れ岸ふうき山路うう事　去耕

所見うて

雪這うて一枝しれ梅うれ　紫の年　湖僊

冬深しう其ふうしてふうう　清雅

梅の花い風うふうう　朱風

夕乃石蝶しひうふうう　埜蓋

其夕や深れ義ひし夫　加　女　さう

さくら田や移れるまゝに水　佳芳

○

まれびとを古寺みせん移れる子　宗也

寒やけてなる山のもみぢ　五来

あるものゝ森にもまるしそのれる　也房

ふさうり金を結て眠を守る　升六

そのあれあるまゝに風の音　蓼虫

ゆくほど寒ほどなくて白童　岩義

時うつる寒ふかくなりゆくまゝ　士朗

梅の花正きふの塚うゑ　岳輪

花もれの蔭にて行ん舞ひけ　月居

山さくら傘ぬるを梅の花　青渕

柳脱を松のれるまゝとも　尼全

種蒔やれうの夏叶秋の糸　幾少

うゝとなるれのまゝれ又　梅潰

人のまゝふれの月をしるれむ　雪雄

折ゆるに雪くだけるうぶ　牛心
人間は光ることを梅柳　完来
はるるなれ間ゆるる柳うぶ　春嶺
摘ぶを雪ふるまれる　古印
雪所や二ヶ月最朝よ新まるを　菅島
霞うぶ花ほき流れぶ　晃明
笑うるうぶりまれ叶　枝芾
か霞門の月まゝうし梅れ　佳山

笑うれ雪新年記まるぶ　南舟
梅咲や草紙乾く牛叶の達　雲雄

○

雪やあれるなれ叶　桜花
柳雲の半ぶ月　不源
松うに恰ぶる大風吹う　響吳
ゆとひうる裂るぶ　撥花
もうるぶ水雪れ叶　恒中

祖代乃奥江れ申さる夕汐　戸南
ウ
みちのくのれすの花屋原て　鹿道
いと楚く果と湯よ実と　尋蘿
き物を定一さんと植さて　漆
番におすてとうと岩市石　矣
夏衣ふ被持さりれみすん　花
清き麻実さ吹を拂なり　甲
小にう脇よ着うつ意河　南

物好自人昆布乃入船　道
雲やはの為ちく月れ沈　班也
牛の疫病乃一さんの家　漆
咲と咲ふて寄る花を　蘿
軍蒲ち奥のふくと飛　花
門庭れ実へ四ちて行うと　甲
特奥乃ふれふ馬の実ふ　也
寄ちの実よ鳴めく寄乃て　矣

牡丹すらひよ襟見て来る　南
こゝろよ縁ふさし都ちきん　道
唯涼る志れ様て柄書く　蘀
茱遠る炭の煙れ雪れおや　深
裏山ゆゑしそより吹颪を　甲
佳人乃すちさのつき塚ありて　之
匍匐たり娘れ世うより　花
月うけて綾也の江湖てねさかい　蘀

ウ
塗もし又笠乃蕎麦葉こ　道
社乃子八十よ乃れ数寄若そて　花
つのえし女つ連し御子　道
すゞしと早歌をまつはね柏子　南
真葛乃ふ乃風れより大　深
真白き松のくずし花まなり　甲
小つつ参る个在姿れ去　英

○

[illegible]　　草庵
山風[illegible]　　鄙夷
[illegible]　　橘花
[illegible]　　草庵
いつれなる[illegible]　　夷
[illegible]　　花
[illegible]　　草庵
京[illegible]　　夷

[illegible]　　花
[illegible]　　草庵
丑満の[illegible]　　夷
氷[illegible]　　花
谷[illegible]の[illegible]　　草庵
[illegible]　　夷
十人の[illegible]　　花
[illegible]　　草庵

[illegible]　英
[illegible]　花
[illegible]　仝
[illegible]　英
[illegible]　阜
[illegible]　花
[illegible]　英
[illegible]　阜

[illegible]　花
[illegible]　美
[illegible]　阜
[illegible]　花
[illegible]　英
[illegible]　阜
[illegible]　花
[illegible]　義

[illegible]　皐

嵐風[illegible]微に吹ちる　花

[illegible]　英

[illegible]　皐

○

うしとたまはりし雲　幽園

人なき家の[illegible]

うしとたまはりし叶　椿花

[illegible]の橋の[illegible]　不保

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

○

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

俳諧書林　京寺町三条下ル町
播屋傳兵衛

田地裏